

16. ハザードマップとは何か？

ハザード (hazard) とは日本語ではもっぱら「危険」という意味合いで用いられているようです。Chat GPT に尋ねてみると『ハザードマップ (Hazard Map) は、特定の地域で発生する可能性のある自然災害や危険な事象に関する情報を視覚化した地図です。これは、地域の住民や関係者が災害リスクを理解し、適切な対策を講じるためのツールとして利用されます。ハザードマップには、地震、洪水、火山噴火、土砂災害、台風など、さまざまな自然災害に関する情報が含まれることがあります。これらの地図は、地形、気象、地質学的な情報などを考慮して作成され、災害が発生する可能性が高いエリアや避難が必要な地域を示すことがあります。ハザードマップは、地域の住民や行政機関が災害に備え、リスクを軽減するための計画を立てる際に重要なツールとなります。また、これらの情報は災害時の緊急対応や避難計画の策定にも活用されます。』という答えが返ってきました。優しい口語体による素晴らしい回答だと思いました。

それでは、特定の地域で発生する可能性のある自然災害と危険な事象とは一体何でしょうか？ 私たちが生活している地盤には、そこに至るまでの生い立ちがあります。国土地理院では、土地の地形の形成・成り立ち・性質などを「地形分類」として公表しています。

「特定の地域」を国土地理院で言うところの「地形分類」とすると、その土地が持っている自然災害リスクについて web 上で確認することができます。地形分類や自然災害リスクは多岐にわたるので、ここでは代表的な事象を表にまとめました。山地など山側では地震や大雨を誘因とした土砂災害、氾濫平野などの低地では地震によるゆれや液状化・大雨による水害、山地と低地の中間に位置する扇状地では場所によっては液状化や土石流などの危険を孕んでいます。ハザードマップでは、これら危険な事象がどこまで影響を及ぼすか図化しています。例えば、土石流はどこで発生し、どこを流下して、どこに堆積するかを

図示しています。この情報から被害規模の把握や避難経路の計画などを行い、まちづくりにおいて自然災害リスクとどう向き合うかを検討する重要なツールとして利用できます。

「地形分類」を見るだけで、どんな自然災害と危険な事象を孕んでいるか判るようになれば「ハザードマップ上級者」と言えるでしょう。

表 「特定の地域で発生する可能性のある自然災害 (誘因) と危険な事象」イメージ ○: 該当

特定の地域 ≡ 地形分類									自然災害 (誘因)		危険な事象	
山地	崖・段丘	地すべり地形	台地・段丘	山麓堆積地形	扇状地	氾濫平野	後背低地・湿地	旧河道	低地	地震		大雨
○	○	○	○	○	○					○	○	土砂災害
○	○		○	○						○	○	崖崩れ
○				○						○	○	土石流
					○					○	○	土石流 部分的
○		○								○	○	地すべり
							○	○		○		揺れが大きい
						○			○	○		揺れやすい
						○	○	○	○	○		液状化
					○					○		液状化 部分的
						○	○	○	○		○	氾濫
							○	○			○	長期間浸水